

数学専攻（博士前期課程） 履修モデル

教員をめざす

想定される具体的な進路・職種	中学数学教員、高等学校数学・情報教員
----------------	--------------------

本専攻には、代数学・幾何学・関数解析学・大域解析学・情報数学の5専修分野があります。それぞれの分野には複数の教員が所属し、個人指導を徹底しています。各専修分野における授業を履修し、講究で修士論文を作成するために、研究に2年間没頭するという経験は、人生の中で他には替えることのできないものになるでしょう。自分で考え、新しい成果を生み出すことはとても難しいものですが、それを成し遂げた人の行う学校教育は、根底から力が湧いてくる力強いものになります。本専攻で所定の単位を修めた修了者は、高等学校教諭専修免許状（数学）および中学校教諭専修免許状（数学）を取得することができます。

一般企業への就職をめざす

想定される具体的な進路・職種	情報関係、金融関係、企業内研究職
----------------	------------------

日々進化する現代の情報社会においては、あらゆる場面で未知の事項に直面します。過去の経験に基づく知識だけで判断することは難しく危険なこともあります。一つの事項を今までとは別の視点からとらえることができる、次に起こり得る事項を予測して対処できる、常に改良、開発を進めていける人材が求められます。このような人材を養成するには、数理的論理推論力を十分に習得させることが必要不可欠です。本専攻の各専修分野における授業および研究を通じて、数学を基礎とした柔軟かつ厳密な論理推論が養われ、その結果、産業界に貢献、寄与できる人材となる教育体制となっています。基本的にはできる限り広い分野の履修を行うべきですが、特定の業種を志望する場合には、その業種と関係の深い分野を重視した履修をすべきでしょう。

研究者をめざす

想定される具体的な進路・職種	博士後期課程進学
----------------	----------

数学の研究者を目指そうと考える学生に対しては、前期課程に引き続き、さらに高度な研究を精力的に進めるため、博士後期課程が設置されています。後期課程には代数学・幾何学・関数解析学・大域解析学・数理情報科学の5専修分野があり、各分野の担当教員により徹底した個人指導が展開されています。前期課程のなるべく早い時期に各自の専門分野の研究体勢に入り、数学において新しい成果を出し続け、各自の道を究めて、博士（理学）の学位取得に繋げてほしいと思います。そのためには数学の論文を国際的に公表するため、外国語（特に、英語）で書き、数学専門誌に掲載されることが必要不可欠になります。今までに、12人の博士（理学）の学位取得者が巣立ち、研究者あるいは教育者として社会の第一線で活躍しています。